

The Voice 校長 インタビュー 京都橘

安田 文彦 校長先生

◆教員たちが積み上げてきた 理想の追求◆を、次のステージへ

宗教的背景がないことを 一つの強みとして生かす

本校の特色を少し違った視点で表現するなら「教員たちによる手作りの学校」とたとえられるかもしれません。

私学には宗教を源流に持つ学校も多く、建学の精神や教育理念もそこに紐づいています。長い歴史においてその教えを守り抜き、脈々と教育を紡いでいられています。一方で本校は、そうした宗教的背景を持たない学校です。もちろんどちらが良い悪いの問題ではありませんが、結果として本校は、時代に即しながら、歴代の教員たちが生徒に何を還元す

べきかを考え、理想の教育、理想の学校を目指して創り上げてきた背景を持つ、ということですね。

それはある意味で柔軟性に富むという見方もできるかもしれませんが、創立以来一貫して変わらない「軸」も当然あります。それが教育理念にもある「自立共生」。ここがぶれることのないように、そのような生徒を育てるために何をすべきか、という点を自問自答しながら改善を重ねてきたと言えるでしょう。

しかし、この「自立」の達成においては私はまだ物足りなさを感じています。これまでも否定しているのではなく、もっと、さらに良くできるはずだと思っております。

たとえば「先生」という職業や立場は、ともすれば私たちに「生徒たちより立場が上だ」という驕りを抱かせかねません。教員が生徒に対して上から構えすぎてしまったり、逆に「そうあらねばならない」と思い込んでしまったり。もちろん、師たる誇りを持ってそれにふさわしい人間であろうとする矜持は忘れてはなりませんし、指導が必要なきもあるでしょう。ただ、教員が干渉しすぎることで、生徒の自立を阻んでしまつては意味がありません。そこで私は校長就任後、今後の運営方針として教員たちにこう訴えました。

「もう一度、教育理念の自立・共生を、ていねいに見直していこう。先達たちが築いてきたものを受け継ぎつつ、次は私たちが一致団結してこれからの京都橘を創ろう！」

自立した生徒を 育てるために 多くの「体験」「経験」を

「自立した生徒を育てる」ための方法論は、さまざまに確立されています。しかし、**「小手先」**と言ってしまうと誤解がありますが、私はテクニカルなことよりも、まず教員がどのように生徒に接していくかが大事であると考えています。**「鍛える」**ことも必要ですが、その中から生徒の**「楽しい」**を引き出さなくては、と思っております。

昨今、教員の役割は「ティーチャーからファシリテーターへ変わらねばならない」という指摘がありますよね。生徒の主体性や能動的な学習意欲を引き出すためです。これについては本校も以前から強く意識し、教育コーチングを学ぶなどの取り組みを行ってきました。これに加えて今後は、もっと生徒の好奇心をくすぐるような接し方や取り組みを増やしていきたいのです。

たとえば、教室内での授業ばかりでなく、もっと「体験」「経験」

Profile

1970年、京都府生まれ。大阪体育大学卒のアスリート校長(陸上競技)。大学卒業後は公立高校、一般企業勤務を経て同校へ。2020年4月、校長就任。いわゆる、学校の外の社会で働いた経験を糧に、生徒を含め、他者に尊大にならない謙虚な姿勢を旨とする。趣味は、生徒たちと一緒に身体を動かすこと。

を増やしてあげたい。これまでもNPOや大学生と町づくり企画のコラボレーションをしたり、企業や地域と連携した課題解決に挑む取り組みなどをしたりしてきましたが、そのようすを見ていてハツと気づいたことがあります。学校ではどちらかというと控えめだった生徒が、目を輝かせて生き活きとプレゼンテーションなどに臨んでいるんですよ。「ああ、この子たちは本来こういう力を持っているんだ」と、とてもうれしかったです。そういう機会やチャンスをもっと広げたいのです。

大学合格実績も 過去最高を大きく更新

本校はクラブ活動がさかんで、受験生や保護者の方たちも、その印象が強いのではないかと思います。一方で、生徒一人ひとりの希望する進路実現に向けても力を入れてきました。その結果の一つとして、2020年度の大学入試では、国公立に89名(省庁大学校含む)、東京大学の現役合格者も出ました。私大では関関同立クラスにのべ157名と、過去最高の記録を更新しています。医歯薬学部系にも23名が合格しました。

これは、放課後講座・校内予備校として取り組んできた『ASTM

(After School Tachibana Method)』の成果が出たものと感じています。ここにも、

生徒の自立を促す、教員のあり方を中心、ここ数年、改善を加えてきたからです。

『ASTM』開始前は、大学受験の専門家などの外部講師を招くほか、本校卒業生をチューターに充てるなどしていました。しかし、ほとんど彼らに任せきりになっていた部分が、あつたことも否めません。そこで、『ASTM』では本校教員がもっと主体的に関わるように改革したので。たと

えば、**「進学アドバイザー」**の任に就いた教員と外部講師らが密に情報交換を重ね、協力して講座を作っていく体制にしました。

外部の力に頼るのは教員の指導力が足りないからではないか、という厳しい指摘も正論ではあると思います。しかし教員に求められる**「指導力」**とは、教科指導力のみにとどまりません。学校として生徒たちに何を還元できるのかという大きな視点で見たとき、彼らが進路実現を果たすために最善の手を尽くすという考えに立って、アップデートを重ねていきます。



クラブ活動においても、運動部・文化部ともに全国レベルで活躍するクラブが多数ありますが、今後はそれだけでなく、たとえば英語のデイベートなどの活動も活性化していきたいです。それは、クラブ活動の根本的理念に「生徒のEQ(心の知能指数)を高める」ことを据えているからです。これらが生徒の**「楽しい!」**や自立を引き出していくものと信じます。

経験や体験と、学業、そしてクラブ活動。生徒たちはせっかく本校に入学したのです。受験一色にならない、成長と思いい

がいっぱいの学校生活を送らせてあげたいという気持ちは決して変わりません。「京都橘で進路を切り拓きたい!」という子どもたちに、ぜひわが校の門を叩いてほしいですね。

こんな学校です

1902年、女性の実業教育を目指す『京都女子手芸学校』として創立されました。2000年の共学化と共に『京都橘高等学校』へ改称。2010年には『京都橘中学校』を開校、現在に至ります。全国レベルのクラブ活動を擁しつつ、難関国公立大や医・薬学部などにも多数の合格者を輩出する、伝統的文武両道校となっています。